研究ノート

香港の上級日本語学習者による日本語複合動詞の習得に関する調査

何　志明

0　はじめに

日本語の複合動詞は多くの日本語学習者にとって習得が難しい項目の1つである。今まで多くの日本語学や第2言語習得の研究者によってさまざまな方面から研究を行われているが，まだ課題が多く残されている。本稿は，言語習得の立場から，香港の日本語学習者の複合動詞習得について，比較的新しくかつ大規模なコーパスの複合動詞例を利用してどのような問題が発生するかを調査し，今後の複合動詞の習得研究や教材開発のために基礎研究を行い，データ収集を行う。

1　日本語複合動詞の習得の問題点

日本語複合動詞の習得の問題点を考える前に，まず複合動詞とはどのようなものなのかを簡単に整理する。例えば，日本語には「取る」や「出す」のような動詞がある。これらの動詞は単独の形で存在し，それ以上分解することができないので，「単純動詞」と呼ばれる。単純動詞「取る」と単純動詞「出す」を1つの動詞として扱う場合，前に位置する「取る」が「取り」（ます形）になり，単純動詞「出す」と結合した結果，複合動詞「取り出す」が成立する。言い換えれば，単純動詞の「ます形」（以下V1（＝前項動詞））と単純動詞の「る形」の組み合わせである。複合動詞の問題点は上記の組み合わせに関連するものが多い。以下は次の4つの観点から複合動詞の問題点を検討する。

1.1　数が多い

複合動詞をめぐる最初の問題は数が多いということである。複合動詞は前項動詞と呼ばれるＶ１と後項動詞と呼ばれるＶ２の組み合わせによって作られる。Ｖ１とＶ２の組み合わせを変えることによってさまざまな複合動詞の組み合わせが可能になる。例えば，石井（2007：363-409）の「既成の複合動詞造語成分の連接表」（資料１）では，『学研国語大辞典（初版）』，『新明解国語辞典（第三版）』，『岩波国語辞典（第二版）』，『国立国語研究所資料集７動詞・形容詞問題語用例集』の現代語の辞書４種類の資料を参考して集計した結果，2,494語に上ると指摘している。

1.2　生産性が高い

複合動詞の組み合わせを詳しく見ると，ランダムに作られるものではないことがわかる。Ｖ１とＶ２それぞれの動詞を整理し並べ替えると，同じＶ１は異なる動詞のＶ２と結合して異なる組み合わせになる。例えば，もしＶ１を「取る」にした場合，Ｖ２を「付ける」にすると，「取り付ける」になる。同じ作業を繰り返せば，「取り上げる」，「取り消す」，「取り締まる」などの組み合わせができる。逆にＶ２を「出す」にした場合，「生み出す」，「送り出す」，「泣き出す」などのものが作られる。また，石井（2007：411-439）の「新造の複合動詞」一覧では，一般的にはあまり使用されていない複合動詞例として519例が報告されている。（下記の例(1)と(2)を参照）

（1）　大人たちが求めているプロの音は，ホントは，普段からドラムの手入れをして，叩き慣らしていないと出ない音なのだ。

（藤沢映子『負け犬』1988，石井（2007：414））

（2）　目を閉じると様々な色あいの絵の具を出鱈目に塗り重ねたような暗闇が僕の上に降りかかってきた。

（村上春樹『ねじまき鳥と火曜日の女たち』1986，石井（2007：416））

1.3　使用頻度が高い

日本語の複合動詞は日本語母語話者が毎日利用している新聞と雑誌をはじめ，さ

表１　朝日新聞の複合動詞使用調査の内訳

朝日新聞での出現回数（延べ回数）	複合動詞の異なり語数
110 回以上	1
100 回以上 110 回未満	1
80 回以上　90 回未満	1
60 回以上　70 回未満	2
50 回以上　60 回未満	6
（小計①）	（11）
40 回以上　50 回未満	2
30 回以上　40 回未満	5
20 回以上　30 回未満	15
10 回以上　20 回未満	54
1 回以上　10 回未満	1, 088
（小計②）	（1, 164）
総計（＝小計①＋小計②）	1, 175（＝11＋1, 164）

まざまな文字資料に使用されている。何（2007）は朝日新聞日刊国際衛星版（2006 年 1 月と 2006 年 2 月 20 日の分）の全紙面（広告を除く）で複合動詞の使用について調査した。2006 年 1 月の朝日新聞日刊の全紙面（広告を除く）を対象にして複合動詞の語彙調査を実施した。本調査期間内の新聞記事の内容に出てきた複合動詞の異なり語数は 1, 175 語である。詳しい結果は以下の表 1 で示される。括弧の中にあるのは述べ語数である。

調査結果における複合動詞の上位使用例の一部は下記の通りである。括弧の中の数字は延べ出現回数である。

（3）　繰り返す（111），取り組む（101），盛り込む（88），受け取る（68），受け入れる（62），打ち出す（58），振り返る（57），乗り出す（57）

上記の調査から，日本語母語話者が日常的に目にする新聞記事に日本語複合動詞が多く使用されることが明らかになった。

1.4　ほかの表現では表せない

単純動詞と複合動詞の間に意味的に似通った動詞が多く存在する。単純動詞も複合動詞も使うことができ，意味的にはさほど大きな相違がない場合がある。例えば，「冷える」と「冷え込む」の違いを見てみよう。

（4）「んーな，めんどくさいよー。蚊にさされるしさー，痴漢だって出ないとは限らないぜ。道に迷ったらいくら夏だって，夜は冷えるから。心細いだろーねーきっと！」

（久美沙織『丘の家のミッキー』2001年）

（5）たとえば，体が冷えるとくしゃみや鼻水が出る。体が冷えるとトイレが近くなる。

（石原結實『ガンも生活習慣病も体を温めれば治る！』2004年）

（6）関東平野ほどの面積で，人口は約345万人と全米第2位。1年中温暖で過ごしやすいが，砂漠の乾いた土地の上に都市が広がっているので，朝夕は冷え込むことが多い。

（アメリカ語学留学『地球の歩き方』2002年）

（7）鳥インフルエンザの騒動や，4月から導入をされます消費税の総額表示など，今後消費が冷え込む懸念も多々あり，私ども中小企業は非常に大きな不安を抱えております。

（経済産業委員会『国会議事録』2004年）

(4)～(7) は動詞「冷える」と「冷え込む」の用例である。(4) の場合は，「冷える」を「冷え込む」に入れ替えることが可能である。(6) の場合は，「冷え込む」を「冷える」に入れ替えることができる。しかし，(5) の場合では「冷える」を「冷え込む」に代えたり，(7) の場合では「冷え込む」を「冷える」に代えたりして使うことができない。すなわち，「単純動詞」と「複合動詞」が似通った動詞の場合でも，必ずしも互換性があるとはかぎらない。したがって，複合動詞が使いこ

なせないと，発話意図がうまく伝わらない可能性が出てくる。

2　複合動詞習得の問題点

2.1　先行研究

松田（2004）は，大学院で日本語教育を専攻する留学生 13 名を対象に「複合動詞のどのようなところが難しいと感じているか」についてアンケート調査を行った（松田（2004：2））。松田の調査結果では，「複合動詞の結合条件」，「単純動詞と複合動詞の使い分け」，「習得方法」の 3 点が学習者にとって習得の困難点として取り上げられた。田中（2004）は森田（1991）の調査結果に基づいて現在日本語動詞の約 40% が複合動詞だと指摘している。確かに，複合動詞が頻繁に使用されている環境は新聞，雑誌などのような日本語母語話者の日常生活に欠かせないものである。学習者が日本語をよりうまく使いこなすためには，複合動詞を理解する必要がある。言い換えれば，学習者が複合動詞がうまく使えないということは日本語母語話者が日常生活で使っている日本語を理解するのに支障が出ることを意味する。さらに，田中（1996，2004）の指摘通り，複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてほとんど取り上げられていないため，教科書分析を行っても使用実態が解明できない。以上のことから，学習者が作文や日常会話の中でうまく複合動詞を使うことはあまり期待できないだろう。学習者にとって複合動詞の中でどのようなものが比較的習得しにくいか，どのようなものが比較的習得しやすいかということについて詳しく言及されている先行研究もあまり見られない状況の中では，有効な指導法を見出すことは難しい。

何（2009）は香港の日本語学習者 35 名（日本語能力試験 1 級合格者：20 人，2 級合格者：10 人，1 級・2 級両方合格：2 人）を調査した結果，複合動詞の指導方法を改善すべきであると指摘する人はほとんどである（34 人）と報告している。具体的に「シラバスの一部として複合動詞を導入する」，「教師が積極的に複合動詞について指導する」，「時間をかけて説明する」，「試験範囲に入れたり，英語及び中国語との相違について学習者に説明する」などの改善案が出されている。

2.2　なぜ複合動詞の習得が難しい？

先行研究で指摘されているように，複合動詞の習得については未解決の問題がたくさん残っている。ここで学習者にとってかなり難しいと思われる課題の１つ，複合動詞の結合条件と意味に関する問題を取り上げて，複合動詞習得の難しさを説明する。複合動詞の結合条件とは，Ｖ１になる動詞とＶ２になる動詞がどのような基準で１つの組み合わせになれるかということである。例えば，(8)～(11) の例を見てみよう。

（８）【取り出す】：太郎が携帯電話を取り出した。
（→「太郎が携帯電話を取る」+「太郎が携帯電話を出す」）

（９）【焼け死ぬ】：花子が火事で焼け死んだ。
（→「花子が火事で焼けた」+「花子が火事で死んだ」）

(8) の「取り出す」の場合は，「太郎が携帯電話を取るという手段でその携帯電話を出す」のように説明できる。また，(9) の「焼け死ぬ」の場合は，「花子が火事で焼けたという原因で死んだ」という説明が可能である。すなわち，Ｖ１とＶ２の間に何らかの関係があり，それぞれＶ１になる単純動詞の意味とＶ２になる単純動詞の意味を合わせて複合動詞全体の意味になる。(8) と (9) の場合，【前項動詞の意味】+【後項動詞の意味】=【複合動詞の意味】であると言える（(8) と (9) の括弧の説明を参照されたい）。しかし，必ずしもすべての複合動詞が同じ性質を持っているとはかぎらない。例えば，(10) と (11) の場合は，単純動詞（Ｖ１とＶ2）の意味を合わせたもの＝複合動詞の意味という説明ができない。

(10)【踏み切る】：社長が人員削減に踏み切った。
（→「社長は人員削減に踏んだ？」+「社長は人員削減を切った？」）

(11)【取り締まる】：警察が交通違反を取り締まる。
（→「警察が交通違反を取る？」+「警察が交通違反を締まる？」）

（10）と（11）の場合，Ｖ１とＶ２の意味を合わせたものはＶ１とＶ２からなる複合動詞の意味にならない。このように，「単純動詞（Ｖ１とＶ2）の意味を合わせたもの＝複合動詞の意味」が成立する場合もしない場合もあることが，学習者が難しく感じる大きな原因ではないかと考えられる。

学習者にとっても日本語教師にとっても，複合動詞は避けては通れない重要な学習項目でありながら，いつの間にか敬遠されてしまっている。教授法や教材不足の問題で現場ではうまく複合動詞教育が実現されていない。上記のような指摘より，日本語複合動詞の教育は軌道に乗っているといえる情況ではないので，これから複合動詞の習得状況に関する予備調査や教授法などの研究が必要とされる。本稿では，香港の日本語学習者が複合動詞をどれぐらい理解しているかを大規模な書き言葉のコーパス，独立行政法人国立国語研究所が開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」モニター公開データ（2008年度版）のデータを利用して検証した。

3　本研究の調査

3.1　研究目的

本研究は香港出身の日本語学習者にとって難しいと思われる複合動詞はどのようなものかを考察し，なぜそれらが習得の問題になるかを検討する。本研究の調査結果を将来複合動詞の教材開発及び指導法のための参考資料とする。

3.2　調査方法と手順

3.2.1　調査方法

本研究は2009年6月12日～6月22日の間に日本語能力試験1級合格者である香港の日本語学習者20名を対象に電子メールによる複合動詞の問題が入っている問題用紙と解答用紙を送付し，後日同じ方法で協力者から回収した。辞書類の使用は禁止であるという注意書きを問題用紙に記載した。

3.2.2　調査対象の語彙の選択

本研究ではまず石井（2007）の資料1「既成の複合動詞造語成分の連接表」の2,494語から，4種類の辞書にすべて入っている複合動詞（GSIK）を1,222語選

び出した。なぜなら，4種類の辞書にすべて入っている複合動詞は一般的に認識度や使用頻度が比較的に高いと考えられるからである。それから，独立行政法人国立国語研究所が開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」モニター公開データ2008年度版（以下，国研コーパス2008と呼ぶ）を利用し，選び出された1,222語をすべてコーパスにかけてそれぞれの複合動詞の使用頻度（複合動詞の終止形のみ）をチェックした。そして，使用頻度の上位40語をアンケートに使用した。ただし，「申し上げる，繰り返す，似合う」のような複合動詞は使用頻度は高いが，一体化したものと見なされるため，調査対象から外した。選び出された40語のコーパス内の出現頻度と日本語能力試験1・2級の出題語彙として採用されているかどうかは以下のように示される。出現頻度しか記載されていない場合は日本語能力試験1・2級の出題語彙（国際交流基金・日本国際教育協会（2004））として採用されていないということを意味する。

（12）　複合動詞　　（出現頻度，1級・2級語彙）

1. 取り組む　　（650，1級）
2. 取り巻く　　（357，1級）
3. 受け入れる　　（325，1級）
4. 思い出す　　（320，2級）
5. 受け取る　　（277，2級）
6. 見直す　　（259，2級）
7. 付き合う　　（252，2級）
8. 取り扱う　　（231，1級）
9. 引き上げる　　（212，1級）
10. 出会う　　（206，2級）
11. 取り上げる　　（169，2級）
12. 振り返る　　（165，1級）
13. 引き起こす　　（147，1級）
14. 取り戻す　　（145，1級）
15. 引き出す　　（140，2級）
16. 立ち上がる　　（126，2級）

17. 引き受ける　（114，2級）
18. 取り入れる　（104，2級）
19. 取り出す　（101，2級）
20. 見上げる　（98，2級）
21. 見守る　（96）
22. 取り込む　（94）
23. 作り出す　（90）
24. 引き下げる　（86，1級）
25. 見分ける　（84）
26. 振り向く　（79，2級）
27. 取り締まる　（76，1級）
28. 向き合う　（76）
29. 持ち込む　（76）
30. 見下ろす　（73，2級）
31. 思い当たる　（66）
32. 乗り越える　（65）
33. 切り替える　（65）
34. 取り消す　（64，2級）
35. 受け止める　（62，1級）
36. 見抜く　（62）
37. 乗り出す　（61）
38. 吐き出す　（59）
39. 飛び出す　（58，2級）
40. 引き継ぐ　（54）

（小計：1級語彙：11個，2級語彙：16個，それ以外：13）

3.2.3　問題用紙と解答用紙

本研究では（12）の複合動詞40語について，国研コーパス2008から該当する複合動詞が入っている例文を選択し，（13）のように問題文を作成した（すべて4択式の問題）。例文を選択する際，比較的新しいもの（2000年以降）を選出した。

（48）

（13） 問題例（問1）

学校での事件・事故が大きな問題となっている近年の状況を重く受け止め，平成15年度も引き続き，学校安全の充実に総合的に＿＿＿＿＿「子ども安心プロジェクト」を実施しており，「学校の安全管理に関する取組事例集」の作成や「学校施設整備指針」における防犯対策関係規定の充実などの対策を講じている。

（内閣府政策統括官共生社会政策担当障害施策担当『障害者白書』2004年）

a. 取り組む　　b. 取り扱う

c. 取り戻す　　d. 取り出す　　（正解：a）

3.2.4 複合動詞の未習率

学習者の複合動詞の習得の成果を考える際，どれぐらい間違っているかだけではなく，学習者がその語彙を知っているかどうかということも重要である。本研究では，調査対象の40語の複合動詞を学習者が知っているか知らないかについても調査した。未習率が低ければ低いほど，より多くの学習者がその複合動詞が知っているということになる。

4 本調査の結果

本研究から得た資料は表2と表3で示される。「取り巻く，取り上げる，受け止める，取り組む，見守る，乗り出す，見直す」のような正解率が50%以下の複合動詞は7語しかないので，全体的に正解率はかなり高いといえる。ただし，学習者の複合動詞の習得状況に問題がないことを意味するわけではない。本研究の調査協力者は比較的高い日本語能力を持っているが，複合動詞の使用と理解に関してまだ改善するところが残っている。まず，複合動詞全体に対する認識がまだ十分とは言えない。それは正解率の低い複合動詞が全部1級の語彙だけではなく，2級の語彙も含まれている。つまり，2級レベルの複合動詞でも正しく認識していない可能性がある。さらに，学習者がよく知っている複合動詞の中には，正解率が高い組み合わせも正解率の低い組み合わせもある。間違いの多い組み合わせの特徴を見ると，「取り巻く，取り上げる，受け止める，取り組む，見守る，乗り出す，見直す」の

表２　本研究の結果（未習率順）

問題	複合動詞	1，2級語彙	未習者数	未習率%	正 解 数	正解率%
Q 6	見直す	2級語彙	0	0	10	50
Q 5	受け取る	2級語彙	0	0	12	60
Q 7	付き合う	2級語彙	0	0	14	70
Q 10	出会う	2級語彙	0	0	16	80
Q 23	作り出す		0	0	17	85
Q 4	思い出す	2級語彙	0	0	19	95
Q 40	引き継ぐ		0	0	19	95
Q 38	吐き出す		0	0	20	100
Q 35	受け止める	1級語彙	1	5	8	40
Q 3	受け入れる	1級語彙	1	5	12	60
Q 12	振り返る	1級語彙	1	5	16	80
Q 39	飛び出す	2級語彙	1	5	16	80
Q 15	引き出す	2級語彙	1	5	17	85
Q 32	乗り越える		1	5	18	90
Q 34	取り消す	2級語彙	1	5	18	90
Q 21	見守る		2	10	9	45
Q 29	持ち込む		2	10	13	65
Q 26	振り向く	2級語彙	2	10	14	70
Q 16	立ち上がる	2級語彙	2	10	16	80
Q 13	引き起こす	1級語彙	2	10	19	95
Q 1	取り組む	1級語彙	3	15	9	45
Q 25	見分ける		3	15	13	65
Q 28	向き合う		3	15	14	70
Q 33	切り替える		3	15	15	75
Q 14	取り戻す	1級語彙	3	15	16	80
Q 8	取り扱う	1級語彙	3	15	19	95
Q 19	取り出す	2級語彙	3	15	20	100
Q 31	思い当たる		4	20	18	90
Q 36	見抜く		4	20	18	90
Q 22	取り込む		5	25	12	60

問題	複合動詞	1, 2 級語彙	未習者数	未習率%	正 解 数	正解率%
Q 27	取り締まる	1 級語彙	5	25	16	80
Q 20	見上げる	2 級語彙	5	25	17	85
Q 30	見下ろす	2 級語彙	5	25	18	90
Q 37	乗り出す		6	30	10	50
Q 18	取り入れる	2 級語彙	6	30	13	65
Q 24	引き下げる	1 級語彙	6	30	14	70
Q 17	引き受ける	2 級語彙	6	30	16	80
Q 11	取り上げる	2 級語彙	7	35	8	40
Q 9	引き上げる	1 級語彙	9	45	17	85
Q 2	取り巻く	1 級語彙	10	50	2	10

表 3　本研究の結果（正解率順）

問題	複合動詞	1, 2 級語彙	未習者数	未習率%	正 解 数	正解率%
Q 2	取り巻く	1 級語彙	10	50	2	10
Q 11	取り上げる	2 級語彙	7	35	8	40
Q 35	受け止める	1 級語彙	1	5	8	40
Q 1	取り組む	1 級語彙	3	15	9	45
Q 21	見守る		2	10	9	45
Q 37	乗り出す		6	30	10	50
Q 6	見直す	2 級語彙	0	0	10	50
Q 22	取り込む		5	25	12	60
Q 3	受け入れる	1 級語彙	1	5	12	60
Q 5	受け取る	2 級語彙	0	0	12	60
Q 18	取り入れる	2 級語彙	6	30	13	65
Q 25	見分ける		3	15	13	65
Q 29	持ち込む		2	10	13	65
Q 24	引き下げる	1 級語彙	6	30	14	70
Q 26	振り向く	2 級語彙	2	10	14	70
Q 28	向き合う		3	15	14	70
Q 7	付き合う	2 級語彙	0	0	14	70
Q 33	切り替える		3	15	15	75

問題	複合動詞	1，2級語彙	未習者数	未習率%	正 解 数	正解率%
Q 10	出会う	2級語彙	0	0	16	80
Q 12	振り返る	1級語彙	1	5	16	80
Q 14	取り戻す	1級語彙	3	15	16	80
Q 16	立ち上がる	2級語彙	2	10	16	80
Q 17	引き受ける	2級語彙	6	30	16	80
Q 27	取り締まる	1級語彙	5	25	16	80
Q 39	飛び出す	2級語彙	1	5	16	80
Q 15	引き出す	2級語彙	1	5	17	85
Q 20	見上げる	2級語彙	5	25	17	85
Q 23	作り出す		0	0	17	85
Q 9	引き上げる	1級語彙	9	45	17	85
Q 30	見下ろす	2級語彙	5	25	18	90
Q 31	思い当たる		4	20	18	90
Q 32	乗り越える		1	5	18	90
Q 34	取り消す	2級語彙	1	5	18	90
Q 36	見抜く		4	20	18	90
Q 13	引き起こす	1級語彙	2	10	19	95
Q 4	思い出す	2級語彙	0	0	19	95
Q 40	引き継ぐ		0	0	19	95
Q 8	取り扱う	1級語彙	3	15	19	95
Q 19	取り出す	2級語彙	3	15	20	100
Q 38	吐き出す		0	0	20	100

ようなものは習得しにくいと思われるタイプ，すなわち，【前項動詞の意味】＋【後項動詞の意味】＝【複合動詞の意味】ではない組み合わせである。日本語複合動詞の中には，単純動詞Ｖ１とＶ２の意味と複合動詞の意味の間にずれがある組み合わせが多く存在するので，学習者を有効に指導する方法を早急に検討しなければならない。

5　本調査の結果分析

本研究の結果を次の３点にまとめることができる。

a. 未習率が同じ語彙でも，正解率が異なる。

b. 2級の語彙でも正解率の低いものがある。

c. 形が類似している複合動詞の区別が難しい。

5.1 未習率と正解率

全体的に正解率は高いが，本研究の結果から同じ未習率の複合動詞でも正解率が異なることが明らかになった。例えば，「見直す，受け取る，付き合う，出会う，作り出す，思い出す，引き継ぐ，吐き出す」のような未習率0%（つまり，調査協力者全員知っている）の複合動詞では，「思い出す，引き継ぐ，吐き出す」のような高い正解率の組み合わせもあるし，「見直す，受け取る」のような低い正解率の組み合わせもある。この現象から，学習者自身は複合動詞の意味や使い方を理解しているつもりであるが，実際にはうまく使いこなせない可能性がある。上記の未習率0%の複合動詞の場合，形の上では難しくないように見えても，正確に使えるとはかぎらない。また，「取り巻く」の場合は，正解率は低いが，その意味を知っている学習者が少ない（半数のみ）ので，本研究の分析対象から除外する。

5.2 2級の語彙の正解率

本研究の結果により，日本語能力試験2級の出題レベルの語彙でも正解率が低いものが出ている。例えば，「取り上げる，見直す，受け取る，取り入れる」のような組み合わせの正解率は40%～65%しかない。複合動詞の使用について，1級の語彙でも2級の語彙でも学習者にとって習得の落とし穴になる可能性が少なくない。レベル別に見れば，1級と2級の語彙の難しさが異なるのではないかと思われるかもしれないが，ある語彙を1級レベルの語彙にするか，2級の語彙にするか，いわゆるレベル分けの基準として，語彙の使用頻度の差が主な考慮の基準であることが出題基準によりわかった。次は日本語能力試験1級・2級の出題基準（語彙）である。

この出題基準から1級と2級の語彙の違いは，2級の語彙が1級の語彙より多くの資料に採用されているということであることがわかる。実際，本研究に使用されているコーパスの中では，出現頻度が高い複合動詞40個のうち，2級の語彙の数（16個）は1級の語彙の数（11個）より多い。正解率が比較的低い2級の複合動詞

日本語能力試験１級・２級の出題基準（語彙）

「語彙の出題基準」を定めるために選定した調査対象資料を基に，次のような基準により１，２級の語彙を認定した。

（１）１級

① 次の３種の資料に採録されている語彙（異なり語数約8,300語）のうちから下記「1，２級語彙選定基準」に基づいて語の選定を行い，約1,600語を削除し，約6,700語を１級の語彙として認定した。

1. 『日本語教育のための基本語彙調査』（1984年国立国語研究所編）6,060語
2. 『日本人の知識階層における話しことばの実態』（1980年国立国語研究所報告）5,341語
3. 「3，４級出題基準」作成のための提出語彙調査により得られた語4,487語

② 次の４種の資料に採録されている語彙のうちから１級の語彙として約1,100語を補充した。

1. 『分類語彙表』（1964年国立国語研究所編）32,600語
2. 『外国人留学生の日本語能力の標準と測定に関する調査研究について』（1982年外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議）5,167語
3. 『中学校教科書の語彙調査 II』（1987年国立国語研究所編）使用度数上位3,290語
4. 『高校教科書の語彙調査 II』（1984年国立国語研究所編）使用度数上位3,067語

（２）２級

① 上記（1）の資料により得られた１級の語のうち，２種以上の資料に採録されている約3,600語を２級の語彙として認定した。

② その他の１級に認定した語彙のうちから，約1,200語を２級の語彙として認定した。

（３）以上の結果，最終的に１級の語彙として7,800語，２級の語彙として4,800語を得た。

（国際交流基金・日本国際教育協会（2004）
『日本語能力試験出題基準［改訂版］』，p. 52）

（取り上げる（例（14）），受け取る（例（15）），取り入れる（例（16））：正解率40%～65%）の場合，文脈上似通った意味を表している複合動詞との混同があるので，学習者にとって区別しにくい。回答者の回答（括弧は回答者がその選択肢を選択した人数を示す）を見てみよう。例えば，（14）の「（事件を）取り上げる」の場合は，学習者が文脈から推測して，「（事件を）打ち出す」という誤用を，（15）の「（許可証を）受け取る」の場合は，「（許可証を）申し込む」という誤用を犯してしまったと考えられる。つまり，学習者の立場から見れば，２級の複合動詞は１級

の複合動詞より必ずしもわかりやすい語彙であるとはかぎらない。以上の理由から日本語能力試験2級の出題レベルの語彙でも正解率が低いものが出ている。

（14）　問11

また，1990年代後半以降，国立大学医学部の教授らが，製薬会社から莫大な賄賂を受け取って便宜を図っていたケースが次から次へと発生した。この形態の汚職は，政治家・官僚の汚職とは異なるとしても，一私企業の利益を図るためにそれとの癒着によって公の職務を汚し，私利私欲を追求している点では同じであるので，新たな構造汚職として一連の事件を＿＿＿＿＿＿。

（神山　敏雄『日本の経済犯罪』2001年）

a. 取り上げる（8）　　b. 作り出す（1）
c. 踏み切る（4）　　d. 打ち出す（7）　　（正解：a）

（15）　問5

その日の寿司屋での前祝の席では，バンザイ！　とヤッタ！　の言葉が何度飛び交ったことか。そこには，ずっと苦労をともにしてきた私，河本，西山氏，中嶋氏，小西，金城の全員が集まっていた。これで許認可のすべてのめどが立ったわけである。あとは三月に発行される県のお墨付き，すなわち許可証を＿＿＿＿＿＿だけだ。

（藤田　敏彰『真実の報酬』2004年）

a. 受け取る（12）　　b. 申し込む（6）
c. 受け入れる（1）　　d. 取り上げる（1）　　（正解：a）

（16）　問18

4月時点での研究テーマは「子ども自身が自己の学習状況を確認し，意欲的に学習を進めていけるような算数の評価はどうあるべきか～「小数」の指導を通して～」であった。また，研究仮説は「「小数」の学習において，

児童自身が自己評価できるような評価規準・評価基準を考えて学習に＿＿＿＿＿＿＿」であり，その帰結として予想される児童の姿は，「意欲的な学習への取り組み，児童の自己評価能力の修得，児童の自己学習能力の獲得」であった。

（島田　和昭『図でみる日本の算数・数学授業研究』2005年）

a. 取り入れる（13）　b. 受け取る（0）
c. 引き出す（2）　d. 取り付ける（5）　（正解：a）

5.3 類似している複合動詞の見分け

類似している複合動詞は数多く存在している。（17）のように似通った複合動詞の選択肢を与え，その中から正解を選び出す問題は学習者にとって難しいタスクの1つであると言っても過言ではない。

（17）問6

たとえば，3年後に利益水準をいまの1.5倍にしようとするのと，5倍にしようとするのとでは，自ずからとるべき戦略が違ってくるからである。財務の視点の戦略目標との整合性に留意しつつ，顧客の視点の戦略目標を＿＿＿＿＿＿。このプロセスを柱ごとに何度か繰り返すことによって，戦略目標とリンケージが固まってくることになる。

（黒崎浩，森沢徹，宮田久也『バランス・スコアカードの経営』2005年）

a. 見守る　b. 見直す
c. 見抜く　d. 見送る　（正解：b）

本研究では，学習者が類似している複合動詞を見分けることができるかどうかを検証した結果，うまく見分けられない組み合わせが存在することがわかった。例えば，（18）の選択肢「食い止める，取り入れる，受け止める，受け取る」の4つの中で，正解の「受け止める」を正しく選択できた学習者は40%しかない。

（18）　問35

人類が今世紀に入って高度に展開させてきた活動様式，すなわち「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会活動は，私たちに大きな恩恵をもたらしてきましたが，他方で，物質循環の輪を断ち，その健全な循環を阻害するという側面も有しています。このような活動様式は，私たちが意識するとしないとにかかわらず，その生存基盤たる環境に対して負荷を与え続けてきました。経済社会活動の規模が小さく，環境に加えられる負荷が自然の循環を大きく損なうことがない間は，私たちはその深刻さを真摯に＿＿＿＿＿＿ことができなかったといえます。

（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課
『循環型社会白書』2001年）

a. 食い止める　　b. 取り入れる
c. 受け止める　　d. 受け取る　　（正解：c）

ところが，95%の学習者が「受け止める」という複合動詞を知っていると答えているのである。また，（19）の選択肢「追い出す，乗り出す，切り出す，突き出す」の4つの中で，正解の「乗り出す」（70%の学習者が知っていると答えた）を正しく選択できた学習者は50%しかない。

（19）　問37

ある会社の社長室に「理想の工場」のイラストがかけてある。トヨタ生産方式をベースにした生産改革に＿＿＿＿＿＿にあたり，社長が頭に描いていた「こんな工場になればいいなあ」をイラストに書き起こしたものだ。現在の姿とは差もあるが，書くことで見えてきたものも多かった。

（若松　義人『トヨタ流「最強の社員」はこう育つ』2003年）

a. 追い出す　　b. 乗り出す
c. 切り出す　　d. 突き出す　　（正解：b）

この結果から，学習者はそれぞれの複合動詞の意味を理解できても，複数の似通った複合動詞の意味を正確に判断できる力はまだ足りないことがわかった。

6　まとめ

本研究では，コーパスの使用頻度が高い複合動詞例を利用して，学習者の習得状況を調査した。複合動詞の使用において，日本語能力試験１級の合格者でも困難があるようである。本研究の調査結果から香港の日本語学習者の複合動詞の習得について以下のようなことが明らかになった。まず語彙レベルでは複合動詞そのものの意味を知っていても，実際の運用のレベルではうまく使いこなせない場合がある。次に，日本語能力試験２級の出題範囲の複合動詞は一見簡単そうに見えても，正解率が低い場合もある。さらに，類似している複合動詞の意味の違いを正しく見極めて使うことは困難である。このように，複合動詞を使いこなすことは容易ではないため，今後さらなる詳細な調査を実施し，学習者の複合動詞習得上の困難点を考慮し，指導法と教材の開発を進めていきたい。

付記：

本研究は 2009 年学習院大学東洋文化研究所東アジア〈未来知〉研究教育プログラムの助成を受け，「香港の日本語学習者の複合動詞の習得」を研究課題として実施されたものである。

謝辞：

筆者は 2009 年 5 月 23 日～8 月 4 日，学習院大学東洋文化研究所東アジア〈未来知〉研究教育プログラムの客員研究員としてご招聘いただきました。学習院大学東洋文化研究所の方々及び学習院大学文学部日本語日本文学科教授の前田直子先生に厚く御礼を申し上げます。また，本研究は香港中文大学の学生及びスタッフの皆様の協力を得て行われました。本調査にご協力くださった皆様に心より感謝を申し上げます。

参考文献

（1）　石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』，ひつじ書房。
（2）　影山太郎（1999）『形態論と意味』，くろしお出版。
（3）　何志明（2002）「日本語の語彙的複合動詞における『手段』の複合動詞の組み合わせ」，『日本語教育』115 号，日本語教育学会，pp. 11-20。
（4）　何志明（2007）「香港における上級日本語学習者の複合動詞の習得及び使用実態調査」，『2007 年度日本語教育学会春季大会予稿集』，社団法人 日本語教育学会，

pp. 47-52。
（5） 何志明（2009）「香港の日本語学習者の複合動詞習得の現状」，『北研学刊』，通巻第5号，廣島大學北京研究中心，pp. 105-115。
（6） 田中衛子（1996）「複合動詞－日本語学習者の教育項目として－」，『名古屋大学日本語・日本文化論集』第4号，名古屋大学留学生センター，pp. 83-100。
（7） 田中衛子（2004）「類義複合動詞の用法一考－日本語教育の視点から－」，『愛知大学語学教育研究室紀要　言語と文化』第10号，愛知大学，pp. 63-79。
（8） 独立行政法人　国際交流基金・財団法人　日本国際教育協会（2004）『日本語能力試験出題基準［改訂版］』，株式会社 凡人社。
（9） 松田文子（2002）「複合動詞研究の概観とその展望－日本語教育の視点からの考察－」，『言語文化と日本語教育』2002年5月特集号，株式会社 凡人社，pp. 170-184。
（10） 松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究－認知意味論による意味分析を通して－』，ひつじ書房。
（11） 森田良行（1991）『語彙とその意味』，アルク。

The Acquisition of Japanese Compound Verb: An Investigation of Advanced Japanese Language Learners in Hong Kong

HO Chi Ming

Keywords: Compound Verbs（複合動詞）, Acquisition（習得）, Corpus（コーパス）, Hong Kong Japanese Language Learners（香港の日本語学習者）, Error（誤用）.

According to previous studies, Japanese compound verb is one of the greatest challenges faced by Japanese language learners. Regarding the acquisition of Japanese compound verb, the criteria of combining the first verb（V 1）and the second verb（V 2）as well as the difference in meaning between a single verb and a compound verb have been taking up as crucial issues. Before developing teaching pedagogies and teaching materials, it is necessary to find out what are the difficult compound verbs for the learners. This paper investigates the comprehension of compound verbs of learners in Hong Kong who passed level 1 of the Japanese Language Proficiency Test. From the result, firstly, it is found that there is a difference between the recognition and the usage of compound verbs. Besides, between the meaning of V 1 and V 2 as two single verbs and as a compound verb, there is a gap which makes it difficult to learn. Moreover, there are occasions that learners are unable to distinguish similar compound verbs. Therefore, it is essential to draw out curriculum and guidelines while paying attention to all mentioned above.